紅茶染めと転写な染による アルフォンス・ミュシャの世界観の表現

吉川　里果

写真1 http://www.mucha.jp/index.html/

1. 目　的

昨今のコレクションなどでアルフォンス・ミュシャの絵画をイメージさせるドレスを見かける。かねてよりビンテージ調のドレス製作を試みたいと考えていた私にとって非常に興味深く注視していた。

そこで、本研究ではビンテージな風合いを得るための染色として紅茶染めを行い、最適な染色方法を検討することとした。また、ミュシャが描いた神々しく美しい女性たちの傍には、様々な花々が共に存在していることから、転写な染を併用することで、表現することを試みた。

写真2 http://madame.lefigaro.fr/defiles/naeem-khan/printemps-ete-2017/pret-a-porter-0/116508#diaporama-1119816_16

2.紅茶について

①ウーロン茶を欧州人の好みに合わせ
　発酵する過程で紅茶が誕生
②1657年　英国　万病に効く東洋の秘薬
③1887年（明治20年）　日本初輸入

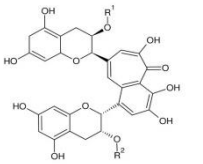


図1. 紅茶の色素テアフラビンの構造.[

④色素：テアフラビン
紅茶浸出成分の2～6%
鮮やかな黄赤色の物質
茶葉のポリフェノールオキシダーゼ（酸化還元酵素）によってカテキンが酸化重合
↓
テアフラビンと
テアルビジンが生成

3.染色工程

もっとも濃い抽出液が得られたイングリッシュブレックファースト（K社）を用いて染色

抽出 → 染色 → 媒染

抽出	染色	媒染
80℃ 10分間	80℃ 10分間	50℃ 30分間

8条件の染色実験の結果、
・浴比　1:50
・抽出濃度　100%o.w.f
・タンニン媒染　0.5%sol

図2より、アルミ媒染に比べ、タンニン媒染のほうがより鮮やかで濃く染まった。

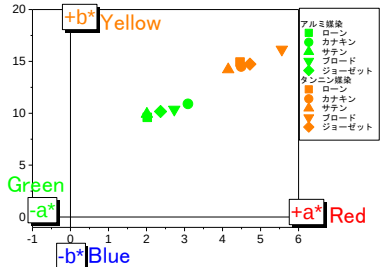
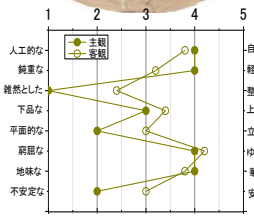


図2　紅茶染め布のL*a*b*表色系のa*b*色度図

4.転写な染工程と花モチーフの印象評価

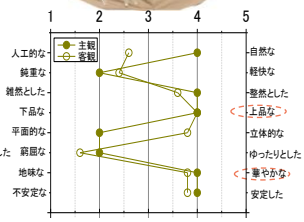
花のデザイン選定
↓
転写紙に印捺
↓
転写な染

（A）



配置案A　イメージプロフィール

（B）

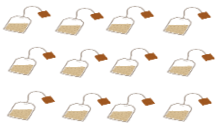


配置案B　イメージプロフィール

SD法によるイメージプロフィール（評価者：8名）
↓
上品で、華やかな印象が強い配置案(B)に決定
↓
ミュシャの描く花を背景にした神々しく美しい女性像へ

5.染色堅ろう度

汗（酸性、アルカリ性）
摩擦（乾燥・湿潤）
耐光（変退色）



数が多いほど、堅ろう性がよい

汗や摩擦によって汚染したり、汗や光によって変退色する度合いを調べた。
5級が最もよく、1級が最も悪い。紅茶染めは4級以上であり、非常に堅ろう性が高い！

6. 紅茶染めと転写な染を用いたドレス